

第2回策定委員会 第1グループの記録

子ども

子どもと遊び
子どもに遊びを教えらるる大人が少ない

子どもの食事
子どもの食事の問題。朝食を取らない

親子関係
子どもはアクセサリーのひとつか、育児放棄か

障害者

障害者と教育
聴覚障害者、視覚障害者は外見で判断できない
教育の問題として、横浜市は障害者をより分ける教育を推進していくかに見える プランとの矛盾

障害者の支援
障害のある子どもと家族の支援 送迎 長期休暇 放課後
障害者のサポートブックづくり

高齢者

介護保険
介護保険制度の問題 重い人にお金が多く出る
医療の部門から見た課題 独居 老老介護 虐待

情報

障害児の子育てを知ってもらおう
学校や地域で、親から障害児の子育ての写真や話を聞いたが好評だった

災害時情報
障害のある子育て伝達会
障害者の災害時における情報の共有

高齢者情報
どのような高齢者が住んでいるかを知る
困っている人の相談先などの情報が大切

一元化された情報発信
一元化された情報の発信場所 身近にあること

伝えていくべき情報を伝えていくこと
ケアプラで障害者や子ども事業をやっているが知られていない
ケアプラでも公的機関以外のところが実施している事業の情報が不足している

ボランティア情報
ボランティアをしたいけれどどのようにしたらいいかわからない

情報交換できるたまり場
子育て支援「情報交換するたまり場がない」 青少年育成

交流の場 活動の場

活動の場の確保
たまり場 誰でも気軽に利用できる施設、又は施設の一部 水道光熱など経費の問題、管理、責任の課題がある

空き部屋
空き部屋を老人会等で使えないか
団地の空き部屋を使わせてもらった(汐見台)
戸塚で団地の住居を買い取って NPOが活用している
地域に既にある資源を活用したらい

送迎サービス
介護者の送迎サービスにすでにある民間の活用(ボランティア 有料化)障害児へもひろげたらどうか
送迎サービスのニーズは高い 供給側の問題を解決できれば
介護保険のグレーゾーン、ニーズが高かったために規制緩和でできるようになった

既にある資源を活かす

供給側がやるか やらないか

連携・ネットワーク

福祉活動のネットワーク
個々の福祉活動がなされているがネットワーク化が不十分
各種団体、サークル間でつながりが不十分である

難しいが具体的に
つくるネットワーク
障害分野の中でも本当の連携はまだまだ。他の領域とどうやって出会うことが可能か
総花的な連携は言われるが・・・具体的な連携がゆっくり積み重ねられない

施設もつなげよう
施設が開かれていない または相互につながりあっていない面が無いのか
例えば(反省を含み)南部センターは利用者以外の住民に発信はあまりしていない 他の施設も似たようなことをしていないか

どんな仕組みが必要か
ネットワークが分野を超えるための課題は何か

環境を整える 生活環境の整備 歩いて暮らせる街

人材育成 支援する人を育てる中身のある具体的な仕組み

地域支援 位置付け 18区で、上から地域支援会議、地域ケア会議の準備会が動いている 施設がそれを応援する動きができないか

何故連携ができないか

障害者を分ける教育を批判すると共に、療育の場を開かないとつながりができない
学校と療育センター 教育側は特に乗ってこない 療育側が頭を下げないと来てくれない
昨年から来てくれるようになった
人のことには関わりたいくない
隣近所とのふれあいが少ない

人間関係の構築
地域でのコミュニケーション
お互いを理解する

コミュニケーションの問題(異世代、同世代含む)
地域での同世代のつながりが少ない

人とのかかわりが希薄化

どうすれば連携できるか

自ら開く
自分の方で開かないと相手との連携ができない
それぞれが公開し合い知り合うことで、分野の中での具体的な連携を積み重ねる

新しい事業に取り組む
社協の活動 地域の人を巻き込んで新しい事業を始める
既存の事業での連携難しい 新しい事業の取組みの中で連携が生まれる

新しい集まりを
従来つまらない集まりから脱皮して新しいものをつくる

コーディネート機能の強化
コーディネート機能の強化、明確化 地域団体などをコーディネート

異種団体交流企画
異種団体が交流できるような事業の企画が必要
事業会意見も参考にして条件を活用 連携教育と地域の具体的接点づくり

地域と学校

進め方

グループインタビューの課題を共有
グループインタビュー 障害者当事者の方々の意見を大事に、皆で考え、取り組む
グループインタビューの意見を皆で問題にして大事にする

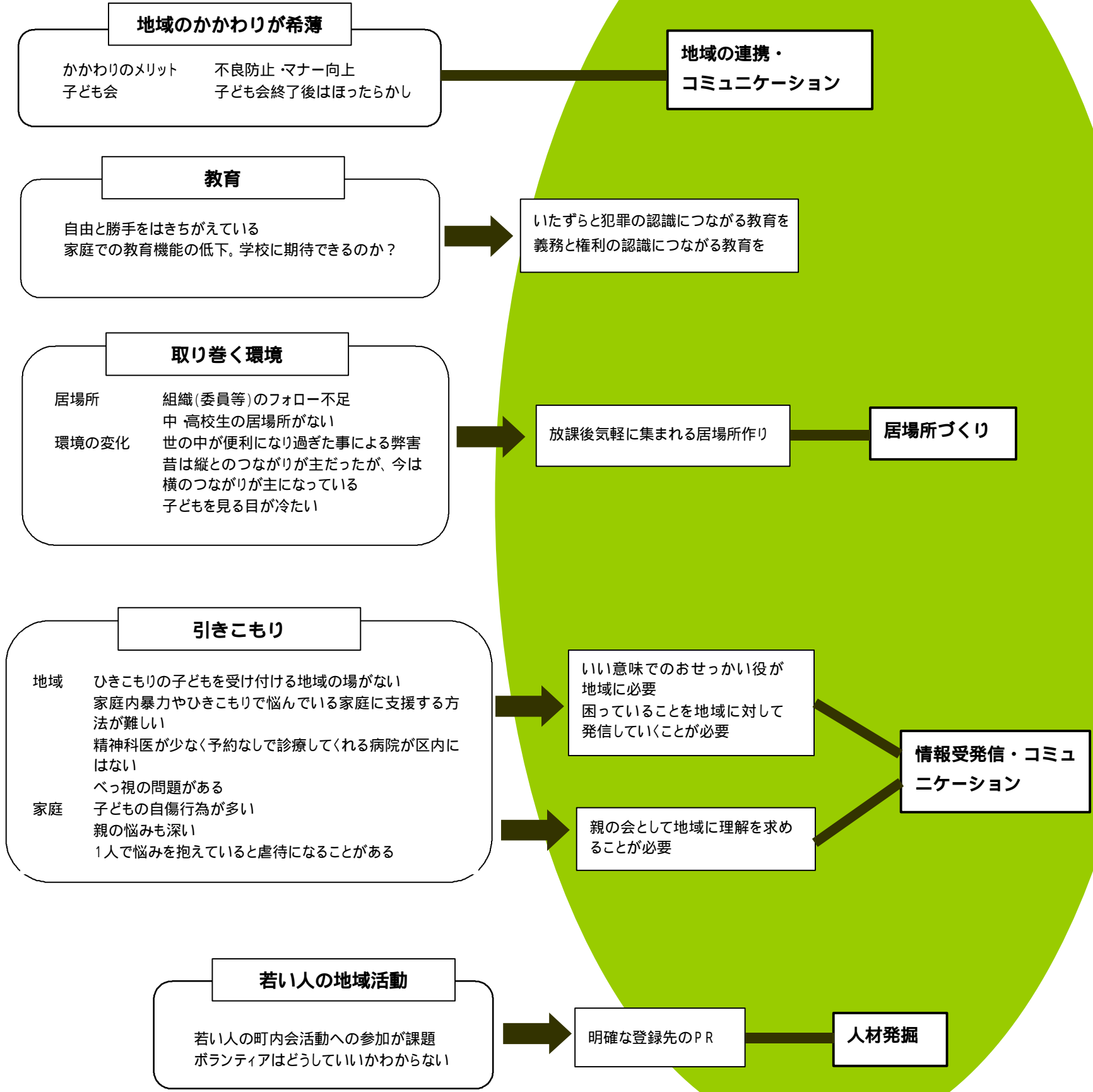
地区で取り組む
地区で住民参加で解決できる課題への取組み

区で取り組む
区全体で共通する主にハード面の課題で全体で進められるもの

第2回策定委員会 第2グループの記録

こうすればどうだろう

子ども・青少年・若い人



第2回策定委員会 第3グループの記録

子ども・青少年

家庭でのしつけ 親世代にしつけの基準がなくなっている
 家庭生活 生活時間の多様化・極端化(幼い子ども連れの家族が深夜のファミレスで食事する)

家庭でもメリハリが必要「絶対ダメ!!」ということを伝えなければならない

障害者

障害についての認識 小中学校では福祉教育をしている

障害者についての教育は小さい頃から必要(実際に病院訪問などが出来たらよい)
 子どもたちに体験する機会の提供(配食サービス・病院訪問)

情報

伝達 情報発信地の拡散 情報伝達が適切に行われていない
 知らないことが多すぎる
 地域毎のニーズも大切
 町(磯子区)の特色が今ひとつはっきりしない
 PR いい材料 若い世代はインターネットなどで広範囲のつながりがある
 入手経路 入手方法の違い

広報活動の充実
 情報を適切に流してあげる
 本当に必要なニーズをつかむ
 まち(磯子区)の特色作り
 対象者の見極め

連携・ネットワーク

福祉活動のネットワーク 町内会や自治会も福祉意識が希薄
 異なる団体の関係希薄化
 お互いの活動が知られていない
 連携の方法手段が統一されていない
 各種団体 つながり
 何故連携ができないか コミュニケーション不足
 地域でコミュニティーが作れない
 個人主義の生活や意見を尊重しながら地域の人とのつながりを持っていくことの難しさ
 人とのかかわりが希薄化

福祉教育の充実(施設のボランティア受け入れの活発化)
 福祉・医療・教育の合同研修会の実施
 地域独自のボランティアグループによるインフォーマルサービスの実施

交流の場 活動の場

コミュニケーションの不足の原因 コミュニケーションできる場がない
 様々な人々が集い語らう場所がなくなった
 場所の確保が難しい
 地形に問題がある(急な坂や長い階段など)
 公共の場 公共施設、スペースが少ない

コミュニケーションできる場作りが必要
 住民が集えるスペースをもっと増やす

地域と個人

地域

中高年 地域活動 リタイヤ後の地域が窮屈 ボラの声がかからない 地域に入れない
 個人の楽しみ 趣味や生涯学習へ入っていく
 人材 地域の人たちを結びつけるコーディネーター的な人が不足
 地域とのつながり 近所づきあいが出来ない
 コミュニティーの崩壊 コミュニケーション能力の低下
 異なる世代との関係が希薄
 低下 活動に関心がない
 近隣に関心がない(関わらなくても問題ないと思っている)
 地域への関心 生活基盤の変化 生活様式の多様化に伴い地域のつながりや行事参加の時間の共有が困難
 若い世代は地域を重視しなくなっているのではないか
 町内会から地域へ 地域住民の要求や生活様式が多様化している
 地域活動 どんなに一生懸命に考えても今必要としていない人は今必要ない
 行事 地域行事への積極的参加
 防犯 時代の変化 犯罪件数の増加
 治安の悪化

・自治会組織の活性化
 ・個人の活動を地域で発表する場を増やす(踊り 音楽など)
 ・「まちづくり」の福祉へとつなげていく
 ・地域のつなぎ役が欲しい
 ・声の掛け合い 挨拶
 ・気軽に声をかけ合える関係が必要
 ・家族単位での支援が必要なのでは?
 ・地域割りから縦割りから1)横のつながり 2)テーマのつながりのコミュニティ作りをする
 ・無理に1つにする必要はなく、各々に必要な部分でつながっていくしかない
 ・横のつながりの機会を町内会から地域テーマ会へ
 ・今必要としている人の部分で考えればよい(独居老人 子育て 障害者 医療など)
 ・親子・異世代で参加できる継続したイベントを行い仲間作りを促進する

個人

家族 形成の変化 核家族化の進行
 三世大家族が少ない
 家族のつながりも下手になってきている
 尊重 個人個人の意見を尊重されるようになったから
 人間個人の尊厳の認識
 「今よりもっといい生活がしたい」という欲望が強くなった
 個人主義 自分の生活を大事にしたいという人間本来のエゴが強調される時代になった
 便利な世の中になってきたが人間として大切な物が失われてきた
 失われている 他人に対する思いやり・連帯感・協調性 道徳心 礼儀

人材育成

人材を生かす仕組み リタイヤした方の受け入れる体制がない
 資源と地域のつながり 定年以後の年代は人とのつながりの必要性を持っている
 自分の才能を發揮できる機会がない
 高齢者の地域活動 高齢者の社会貢献度が不足している

平成17年度にコミュニティービジネスを作る(夢みん的なもの)
 遊びのコーディネーターの育成(世代間交流の要)
 「人」を活かす、NPO・CB促進(行政はバックアップ)
 老人会・子ども会の合同行事(昔遊び 遊びの再発見)

行政とタイアップ

介護要望を自治会単位で行う
 予防策の推進 区レベルでの介護事業の展開
 「健康磯子21」運動を自己資金で行う